

雁坂峠から甲武信岳までの稜線を歩く 雁坂峠～甲武信岳

実施日 2014年6月14日(土)～6月15日(日)
 天候 晴れ
 リーダー 石原 勝正
 参加者 齋恵美子、島本陳重、白石恵美子、石附智恵、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、滝沢きよの 計9名
 費用 JR中央線 2,280円 タクシー(塩山⇄西沢溪谷往復)3,100円
 雁坂小屋素泊まり 5,000円
 合計10,380円
 タイム 6/14 雁坂トンネル入口(10:10～10:45)沓切橋林道終点(10:50～12:05)井戸沢出合(12:05～13:45)昼食)雁坂峠(14:00～14:15)雁坂小屋 泊
 6/15 雁坂小屋(5:10～5:25)雁坂峠(5:30～6:10)雁坂嶺(6:15～7:05)東破風山(7:10～7:35)破風山(7:40～8:15)破風山避難小屋(8:30～10:00)甲武信小屋(10:00～10:25)甲武信岳(10:35～10:55)甲武信小屋(11:00～11:48)昼食)木賊山(12:00～12:15)戸渡尾根分岐(12:15～13:20)徳ちゃん新道分岐(13:30～15:00)西沢山荘登山口(15:10～15:30)西沢溪谷入口 B S

先週の6日から関東地方も梅雨に入り大雨が続く川が増水により土砂崩れ災害が関東各地で発生するなど山行予定日の天候が心配されていたが、山行日の前日から一転天候が回復し快晴に恵まれて、石楠花の群落と縦走路の展望を期待して1泊2日の奥秩父山旅に向かった。

6/15雁坂トンネル入口～雁坂峠(小屋)



塩山駅からタクシーに乗り雁坂トンネル入口駐車場に到着。駐車場横のゲートを越えて林道に入る。前方に雁坂嶺、破風山を眺めながら春ゼミ

ミが合唱のように鳴く車道を歩いて、林道終点の沓切(クッキリ)沢橋を渡ると登山道だ。

樹林帯を久渡沢に沿った巻道を登り下

りする。途中で沢に落ち込みそうなザレ場と濡れた岩場の様相を見せた枝沢を慎重に横断する。暫くゆっくり登り返し右から入る枝沢(クッキリ沢)を渡り、増水気味の峠沢の左岸を進んで安全そうな徒渉



地点を探して右岸に渡る。そこから急坂となり井戸沢の出合を少し上ったところで昼食タイムをとる。その後、井戸沢を渡り樹林帯から明るい笹原草原地帯に入るが道はジグザグの急坂が続き今日最後のアルバイトを強いられて雁坂峠に到着する。雁坂峠は北アルプスの鉢ノ木峠、南アルプスの山伏峠とともに日本三大峠

と呼ばれているそうだ。雁坂峠から快晴に恵まれた素晴らしい富士山の眺望が素晴らしい。峠の標識前で恒例のこぶし会集合



写真を撮ってから峠を秩父側に原生林の中を暫く下ると今日の宿となる雁坂小屋に到達する。山中さんという若い管理人から大歓迎を受け、早速、小屋のビール(500円)で乾杯する。



少し下った小屋の水場の横にはピンクの花をつけたシャクナゲの群生がある。早速、夕食の野菜カレーの準備を開始する。み

んなで分担して持ち込んだ食材、ご飯、ガス、コップ、調理器具を使って、女性会員が中心となって野菜カレーを調理する。出来上がった野菜カレーは絶品の味で参加者全員が舌つづみを打って食べ、楽しい夕食パーティとなった。



明日の尾根縦走と西沢溪谷下山までの長い行程に備えて午後8時までに全員就

寝ベッドに着く。夕刻になって周りの山々がガスで視界が遮られて翌日の天候が心配される様相を見せていたが、夜半になると煌々とした満月と都会では見られない満天の星が輝く素晴らしい夜空を迎えることとなった。

6/15 雁坂峠(小屋)～甲武信小屋～西沢溪谷

朝は4時起床、天気快晴、昨日の野菜カレーを温めて朝食をとり5時早々に小屋を出発する。



小屋から雁坂峠まで登り返し、今日も朝の輝く富士山の絶景を眺望する。所々縞枯れ現象で立ち枯れの林が目立つ原生林の尾根路を登ると雁坂嶺の山頂に到達する。雁坂嶺は展望がよくないので集合写真を撮ってすぐ出発する。東破風山への縦走路は縞枯れの立木の林が続き、時々灌木越や木々の隙間から富士山や乾徳山・黒金山、眼下に豊かな水を蓄えた広瀬湖の眺望が素晴らしい。

ところどころ縞枯れの立木林が

続く道を雁坂嶺から東破風山を越えて西破風山に着く。山頂に三角点はあるが木立に囲まれ展望はない。周囲にシャクナゲが群生しているが残念ながら何故か花は見られない。山頂を少し下ると前方の木賊山や三宝山への展望が大きく開け、道は岩石帯の急な下りとなり、一変してピンクの花が満開のシャクナゲの群落に



出会い感動する。この辺りに来ると甲武信小屋に宿泊した登りの登山客が増えて交互に道を譲りあい、シャクナゲの花を楽しみながら慎重に岩石帯の急坂を下る。岩石帯を抜け破風山と木賊山の鞍部に下ると明るい笹原が開けた笹平に着く。笹平には立派な破風山避難小屋がある。笹原を抜けると低い灌



木地帯を進むと木賊山への急な登りが始まる。午前の日当たりも強く温度も上昇し、花崗岩砂で滑りやすい嫌な道を1時間強登り、木賊山への山腹途中で山頂に向かわず甲武信小屋への巻道に向かう。

甲武信小屋でザックをデポして樹林中を急登して今日の目的地である甲武信岳に立つ。天気は快晴、頂上からは西方向に国師ヶ岳、奥千丈、金峰山へ続く奥秩父主脈縦走路が開け、八ヶ岳連峰、南アルプスの北岳・甲斐駒・仙丈ヶ岳、富士山と360度の素晴らしい展望を楽しむ。甲武信小屋に戻り再びザックを背負い木賊山に向かう。途中の展望の開けた場所で昼食タイムをとり、正午過ぎに木賊山山頂に到達して、戸渡尾根入口に向けて下山を開始する。



戸渡尾根入口から戸渡尾根に入ると眺望もなく原生林の中を単調な急下降がひたすら続く。更に下るとシャクナゲの群生地帯に入り、満開の花を楽しみながらぐんぐん高度を落とし尾根筋を下る徳ちゃん新道へ向かう。シャクナゲの花のトンネルが終わると、木の根と岩石と崩れた土が絡まった急坂と緩やかな山道を交互に下り西沢溪谷山荘のある林道に出る。林道をさらに下って予定の3時30分ごろに西沢溪谷バス停に着いた。2日目は朝5時早々に雁坂小屋を出発し休憩時間等を入れて約10時間の長丁場の行程であったが、参加者皆さん全員の協力を得て全員無事下山することができた。

戸渡尾根入口から戸渡尾根に入ると眺望もなく原生林の中を単調な急下降がひたすら続く。更に下るとシャクナゲの群生地帯に入り、満開の花を楽しみながらぐんぐん高度を落とし尾根筋を下る徳ちゃん新道へ向かう。シャクナゲの花のトンネルが終わると、木の根と岩石と崩れた土が絡まった急坂と緩やかな山道を交互に下り西沢溪谷山荘のある林道に出る。林道をさらに下って予定の3時30分ごろに西沢溪谷バス停に着いた。2日目は朝5時早々に雁坂小屋を出発し休憩時間等を入れて約10時間の長丁場の行程であったが、参加者皆さん全員の協力を得て全員無事下山することができた。



2日目は朝5時早々に雁坂小屋を出発し休憩時間等を入れて約10時間の長丁場の行程であったが、参加者皆さん全員の協力を得て全員無事下山することができた。



休憩時間等を入れて約10時間の長丁場の行程であったが、参加者皆さん全員の協力を得て全員無事下山することができた。

(記&写真・石原 勝正)

(写真提供・伊藤久雄)